

門とは陰惡の氣の聚る所にして、百鬼出入する門戸なり。故に此方を犯す時は、百鬼よく世人を殺害す。故に天帝二神に命じて是を守らしむ。一を神茶といふ、一を鬱壘といふ、二神ともに、百鬼を守りて、猥に人を損じ害する事を成さしめず。然といへども、若人有て此方を犯す時は、二神も守る事能はずして、百鬼の爲に損害せらる。慎すんばあるべからず。按ずるに、丑寅の方は陽神來り、陰氣往くの地なり。節氣に於ては、除夜の所たり。是即冬陰の殺氣退て、春陽の生氣來るの日也。故に和俗、此夜は家毎に陽神の福を迎へ、陰神の毒を追ふもの、其所以宜なるかな。

〔籩籩内傳〕天王

○牛頭

欲歸北天、或時命八王子曰、我爲北天主、往昔南海趣時、中間有國、曰廣遠國、彼

國主名巨旦大王、咸是魍魎魍魎類也、已望彼鬼門欲求一宿、巨旦恚怒令我彈呵、我已齋故恐然退去、〔谷響集〕鬼門

有客問俗間東北隅名鬼門、有本說耶、答、未考本說、海外經云、東海中有山焉、名度索、上有大桃樹、東瓊枝名曰鬼門、萬鬼所聚、瓊呼罪切腫傍出也、又木病無枝也、又俗間相傳、東北名鬼門、東南名人門、西南稱地門、西北稱天門、又法苑珠林十云、依神異經曰、東北方有鬼星石室、屋三百戶、而其所石傍題曰鬼門、門晝日不閉、至暮則有人語、有火青色、

〔輪池叢書 四十〕家相圖說 ○中略

陰陽家尤忌鬼門、世俗亦極忌之、其故何也、山海經曰、東海度朔山有大桃樹、蟠屈三千里、其卑枝向東北、曰鬼門、萬鬼出入也、有二神、一曰神荼、一曰鬱壘、簡閱萬鬼之無道之者、縛以韋索、執以飼虎、若無其兄弟、簡閱萬鬼、則忌鬼門可也、今縛以韋索、執以飼虎、則不可忌之、岐伯不言乎、開鬼門潔淨府也、鬼門、淨府也、

勝眺也、世俗忌彼鬼門、而遺我鬼門何也、則雖遽忌、我鬼門無所逃避、然則不可、管忌彼鬼門也、易曰、坎九

三云、高宗伐鬼方、三年克之、夫坎者水也、正北方之卦也、由是觀之、可總指北方曰鬼門、其忌東北隅何、東北隅即寅丑也、其對之者西南之未申也、申之爲言伸也、言陰氣用事伸賊萬物也、未之爲言味也、言